
おとーさんが語るお話 ~ 桃太郎 ~

呪理阿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おとーさんが語るお話　　～ 桃太郎 ～

【Nコード】

N 5 7 7 5 P

【作者名】

呪理阿

【あらすじ】

妹に頼まれ、おとーさんが話始めたのは桃太郎のおじいさんとおばあさんをちよつと（ちよつと？）ダークにしたお話だった。とにかくギャグ。最初もギャグ、最後もギャグ。シリアスなんて物はない。そんなお話。

（前書き）

誤字、脱字等あるかもしれませんが。できれば教えてください。
最後の方にちよつとだけ残酷なところがあります。苦手な方はご注意ください。

始めまして。

あたしは高山忍たかやましのぶといいま「お父さん、何かお話して」

……ろくに自己紹介もさせてくれないのでしょうか、こいつは。
この自己紹介を途中でぶちっと切りやがった……いえ、切ったこの小娘……。

ではなくて女の子はあたしの妹で高山光たかやまひかり。

あたし達（おとーさん、おかーさん、あたし、光）はただいま晩御飯を食べていて、

光がおとーさんに何かお話をするように頼んでいる訳であります。

「よし、じゃあ『桃太郎』を話してあげよう」

桃太郎？

「むか～し昔、ある所に、おじいさんとおばあさんがおりました。

ある日、おじいさんは山へ芝刈りに、おばあさんは川へ洗濯をしに行きました

おばあさんが川で洗濯をしていると、川下の方からどんぶらこ、どんぶらこ、大きな大きな桃が」

「ちよつと待て！ 何で川下から桃が流れてくんの！？」

「誰がいつ『流れてくる』と言った」

む、確かに流れてくるとは言ってなかったけど……。

「大きな大きな桃が、流れてきました」

「今言ったあ！！」

「うるさいな。黙って聞いてよ、お姉ちゃん」

黙ってられるかつ ふんっ

「流れてきました」

おばあさんは、『おいしい桃ならこっちへ来い、不味い桃ならあ

「うちへ行け」と言いました」

賢沢だな、ばーさん。

「すると、桃はすすすすーと、」

近寄ってきたのか。

「遠ざかっていきました」

おいっ！ それじゃ桃太郎生まれないじゃん！

「『あら、残念。今の桃はおいしくなかったの』と、おばあさんは言い、また洗濯を始めました。

最後のおじいさんのジーパンを洗い終わっ」

「なんで桃太郎の時代にジーパンがあるんだ!？」

「細かいことは気にしちゃ負けだよ、お姉ちゃん」

……細かい、かなあ。……百歩譲ってそういうことにしておこう。

「終わった時、洗濯籠の中に男の子の赤ちゃんがいるのを見つけました」

なんでそれまで気付かなかったんだばーさん！

「『あら、可愛い男の子なこと。おじいさんにも早く教えてあげなければ』と、

おばあさんは喜び、タップダンスを踊りながら帰」

「なんで桃太郎の時代にタップダンスがあるんだ!」

「お姉ちゃん、気にしない、気にしない」

むむむむむ……

「帰っていきました。

おばあさんが家に帰ると、おじいさんはもう帰ってきていて、ヒーターの前に座っていました」

なんでその時代にヒーターが!？

……口には出さない。また光に『気にしない』って言われるだけだから。

「『おお、ばあさんや、今日はいいものを拾ったぞ』そう言っておじいさんは懷から、

あの大きな大きな桃を取り出しま」

「桃、山まで行ったの！？　ってかおじいさんの懐どうなってんの！？　四次元ポ。ット！？」

「『あら、わたしも今日男の子を拾ったんですよ』おばあさんは言いました」

え？　スルー？

「おじいさんは言いました。『ばあさんや、今日の夕飯は豪華じゃのう。』

桃のソテーに赤子のパフェか」

……もう、突っ込む気力もないや。どうにでもなれ。

「おばあさんはニコニコして『いいですね』と答えました。

そして、二人は桃のソテーと赤子のパフェという、

今までで一番豪華な食事にたどり着けたのでした。　おしまい」

「……ごちそうさま」

「あらゝ、忍ゝ？　もうご飯いいの？？」

「もういい」

食欲なくなつた……。

（後書き）

始めまして。呪理^{シュリア}阿と申します。

ご感想等々いただければ、宇宙まで舞い上がります。時間があれば、
お願いします。

……宇宙って舞えるのかな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5775p/>

おとーさんが語るお話　～ 桃太郎 ～

2011年10月8日13時47分発行